

平成 11 年(1999)11 月 3 日、長年映画界に貢献したことから美術監督村木与四郎とともに勲四等旭日小綬章(※99)を授章します。そして『雨あがる』のスタッフを中心に親しい仲間たちがこの二人の叙勲(※100)祝賀会を開いてくれることとなりました。

12 月 5 日、小田急線の成城学園前駅のマダムチャンという料理店にみんなが集まります。約束の 4 時をまわり、勝は細かい急な階段を上り、みんなの拍手に迎えられて席につきました。「そろそろ始めましょうか？」の声に、勝は乾杯前の

くんよんとうきよくじつしょうじゆしょう
※99 勲四等旭日小綬章

くんしょう
日本の勲章の一つ。

じょくん
※100 叙勲

こうきょう こうろう くんとう くんしょう あた
国家や公共事業に功労のあった人に勲等を受け、勲章を与えること。

方がよ良いと思ったのか、じゆしょう授章したくんしょう勲章をひろう披露しようとして、そのケースを開いたところ、ケースの中からいっしょ一緒に入っていたりやくしょう略章がまさる勝の足下に落ちてしまった。それを拾おうと、足下にかがみ込んだとたん、「ウウツ」と声を出して前のめりになりながらむね胸をかきむしり、「こんないた痛みははじめてだ……。」と言いながらたお倒れ込んだ。これがさいご最後の言葉となりました。

すぐにきゆうきゆうしゃ救急車を呼びみたか三鷹のきょうりんだいがく杏林大学の病院に運ばれましたが、な亡くなりました。しいん死因はしんきんこうそく心筋梗塞でした。

ぎんまく銀幕の中のメロディーをひたすらついきゆう追求した 71 年の人生でした。

12月21日「佐藤勝お別れの会」が青山斎場で行われ、多くの知人友人ファンが祭壇に献花(※101)してお別れを告げました。参列者には「追悼佐藤勝」のCDが手渡されました。



参列者に配られたCD

第54回毎日映画コンクールで黒沢明監督作品を初めとする数々の映画音楽を作曲し、日本映画の質を高めた功績に対し特別賞が贈られました。

※101 献花

霊前などに花を供えること。

よくとし

翌年(2000) 1月22日、『雨あがる』が公開され、佐藤勝^{さとうまさる}308

ぎんまく

えいがかん

本目の銀幕の中のメロディーが映画館に流れたのです。